

就職活動体験記

遠藤 菜々子（社会学部社会学科）

はじめに

私はメーカーを第一志望に就職活動を行っていましたが、最終的に出版社から内定を頂き、入社を決めました。様々な業界の企業の採用選考に参加するいわゆる「ミーハー就活」を行い、警備サービス会社やIT企業などからも内定を頂きました。今回は私の就職活動の経験を踏まえ、後輩に実践して頂きたいこと3点と、ミーハー就活をおすすめしない理由をご紹介します。

1 選考対策は早い時期から始めよう

私が本格的に就職活動を始めた時期は、平均的な就活生よりやや遅い3年生の1月でした。化粧品販売のアルバイトを長く継続していたことから、漠然と「化粧品メーカーに入りたい」と思い、秋から冬にかけては化粧品会社の1 day インターンシップに参加していました。ただ、どれも書類選考のみで、私は2月まで面接の経験が一度もありませんでした。極度に緊張しやすく、受け答えが苦手な私は、インターンシップ参加者へ向けた早期選考の一次面接で尽く不合格となりました。

そのとき私は、これまで面接対策をしてこなかったことを深く後悔しました。これは言い訳かもしれませんが、私は高校時代を海外で過ごしたため、日本語で自分の考えを論理的に伝えた経験が少なく、そもそも面接に苦手意識がありました。早期から就職活動を行っていなかったのも、就職活動に怖い印象があったからだと思います。以上のことから後輩には、「なるべく早くから就職活動を始めて、本選考前に必ず面接の練習を重ねること」を一番に実践して頂きたいです。一度不採用になった企業へのリベンジは、多くの場合できません。「今の面接のスキルがあれば、落ちてしまったあの企業の面接も合格できていたかな…」と後悔することが今でもあります。

面接の際は、「メラビアンの方則」を意識するべきだと思いました。これは、「情報アーキテクチャ演習」の授業で学んだことなのですが、物事を伝える際は、話の内容が7%、口調や声のトーンが38%、見た目や表情が55%の割合で相手に影響をもたらすようです。つまり、面接官は学生の話す内容よりも話し方を重点的に見ていることが考えられます。私が就職活動を始めた当初は、自信のなさから原稿を用意し、面接で話す内容を一字一句暗記していました。しかし、それは時間を無駄にするだけで、無意味だったと実感しています。面接の際は、笑顔で堂々と自信に満ちた話し方を第一に優先して頂きたいです。

筆記試験対策に関しても、なるべく早くからコツコツ始めるべきだと思いました。いくら入社意欲が高くても、筆記試験に落ちてしまえばそれをアピールする機会を得ることはできません。特に今の時代、分からないことがあればすぐにインターネットで答えを得ることができるため、自分自身も思考力が低下していると感じていました。私は計算問題の対策の一つとして、アルバイトで精算の際に電卓を使わず筆算をするなど、日常生活のふとした瞬間に頭を使う機会を増やすということを心掛けていました。

2 学内の合同企業説明会には積極的に参加しよう

立教大学のキャリアセンターは、10月頃から定期的に全学年に向けて企業説明会を実施し

ています。私は2月下旬から見始め、周囲に内定が出始めるなか、6月まで参加し続けました。あらかじめ、気になる企業はリストアップして計画的に視聴していましたが、最初は何となく見てみるだけでも良いと思います。私は空き時間にちらっと覗いてみた説明会の内容に興味を惹かれ、二次面接まで進んだこともありました。合同企業説明会に参加している企業は、立教生を積極的に採用したいと考えているはずで、私も就職先を合同企業説明会で初めて知り、選考に参加した結果、合格を頂きました。合同企業説明会ではほとんどの企業が最後に質問の時間を作ってくれます。視聴者は立教生のみに限られるので、質問をすればほぼ確実に回答をして頂けます。充実した学内の合同企業説明会を企業研究に活用することをおすすめします。

3 志望動機よりもこれまでの努力や成果を熱心に伝えよう

私の就職活動の軸は、「少数派の権利も尊重した多様性に寛容な社会の構築に貢献したい」ということでした。メーカーに限らず、商社や不動産会社などの選考も受けましたが、この夢をより具体的に実現できるのは、社会の現状や課題を自らの手で発信できる出版業界だと考え、就職先を選びました。今考えると、メーカーを志望していた理由も曖昧でした。私は選考に参加するなかで自分が本当に実現したいことを見つけたので、早期から自分の夢について深く考えていれば、より効率的な就職活動を行えたのではないかと思います。

先日、内定者食事会に参加した際に、面接官を担当された社長に私を採用して下さった理由を伺ったところ、以下の回答を頂きました。「志望動機や入社後にやりたいことよりも、今までどんなことに挑戦し、努力を重ねてきたかを評価した」とのことでした。面接の際、志望動機を聞かれず雑談が多かったため、採用の見込みがないのかと心配になることもありました。しかし、社長の意見を聞き、新卒採用では人柄やこれまでの努力が評価の対象になりやすいことを改めて実感しました。勿論、この評価基準はすべての企業に共通するとは限りませんので、論理的な志望動機を考えることも重要です。ですが、まずは自分が学生生活の中で何に注力し、どのような結果を残すことができたのか、細部まで自己分析すべきだとアドバイスしたいです。

おわりに

私は自信のなさから50社以上の企業にエントリーシートを提出しました。「就活は数撃てば当たる」という言葉を信じていたからです。しかし、この方法はあまりおすすめできません。業界はバラバラで、企業研究も広く浅く行っていたため、せっかく面接に進めても企業への理解が乏しく、熱意を伝えることができませんでした。そんな自分が情けなく、当初は周囲に相談することも避けていました。とはいえ、就職活動は仲間と切磋琢磨して行うべきです。友人は時にライバルになることはありますが、敵ではありません。必ず味方をしてくれます。私も親しい友人と頻りに模擬面接を行っていました。仲が良いからこそ、正直で厳しいアドバイスを受けました。また、友人の面接の様子を見ることで学べる部分もたくさんありました。一人で悩みや不安を抱えないためにも、信頼できる友人にはどんどん頼るべきです。

最後まで私の就職活動体験記をお読み頂きありがとうございました。正直、「出版社の選考対策としてすべきこと」を述べることはできません。なぜなら、多数の企業を受け、選考方法はどこも共通していることを学び、特別な準備は必要ないと思ったからです。「ケース面接」などの例外もありますが、基本的には早い段階から自己分析や面接対策をしっかりと

行っていれば、選考で困ることはないと思っています。

最後に、この体験記が少しでも皆様のお役に立てれば幸いに存じます。ぜひ私の失敗を反面教師として、自分らしく就職活動を楽しんでください。皆様が今後、納得できる就職先で活躍されることを心から願っております。